

経営比較分析表（平成28年度決算）

山形県 金山町

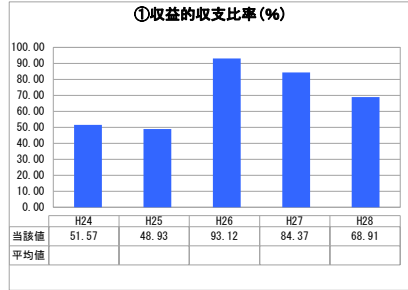
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 農業集落排水 | F2 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円) |
| - | 該当数値なし | 21.70 | 96.35 | 3,022 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 5,827 | 161.67 | 36.04 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 1,258 | 1.21 | 1,039.67 |

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



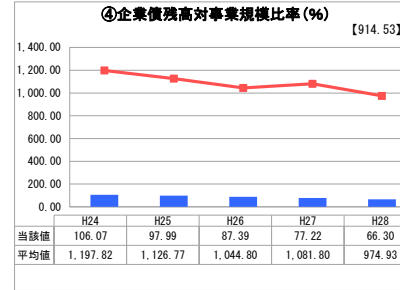
「単年度の収支」



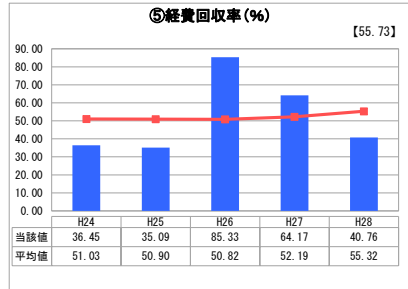
「累積欠損」



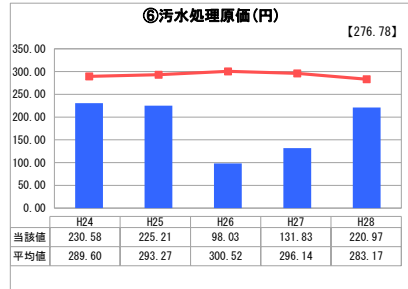
「支払能力」



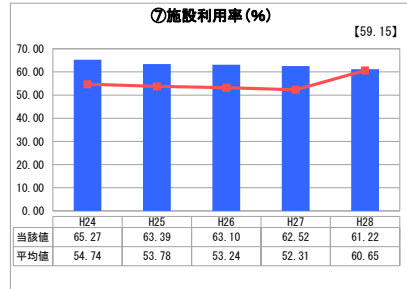
「債務残高」



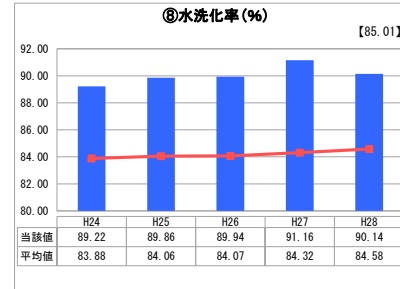
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

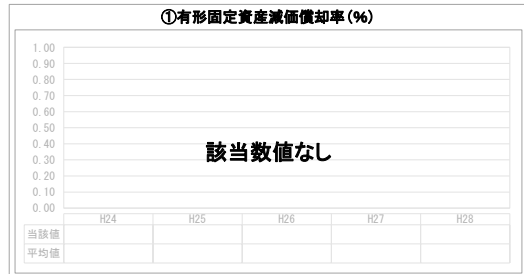


「施設の効率性」

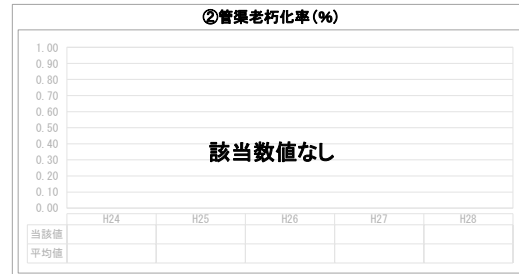


「使用料対象の捕捉」

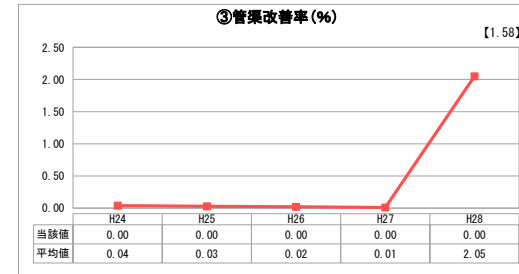
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

農業集落排水会計は、現行料金では財源不足であり一般会計からの繰入金を経費に充てている状態である。収益的収支比率及び経費回収率共に低く、収益増加のために、農集への加入促進、使用料の適正水準への改定と収納対策を講じていく必要がある。また、農業集落排水処理施設（明安処理区、有屋処理区）及び管渠は、老朽化が進み維持経費が今後増加することが見込まれることから、平成28年度に明安地区の機能診断調査を実施し、計画的に更新工事を実施するため、平成30年度から機能強化事業を実施していく。有屋地区については平成32年度に機能診断調査を実施して機能強化事業を活用し施設の更新を実施していく。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水施設は、明安処理区が昭和63年度、有屋処理区が平成6年度に供用開始しており、老朽化が進んでいるため、機能診断調査を行い更新計画を策定する必要がある。明安処理区は、平成29年度に更新計画を作成し、平成30年度から機能強化事業を活用し施設更新を実施する。有屋地区は平成32年度に機能診断調査を実施し、その後機能強化事業を実施していく予定である。

全体総括

農業集落排水事業は、明安処理区が昭和63年度の供用開始から平成28年度で28年が経過し、施設設備の老朽化が進み、維持経費が増加する傾向にある。平成29年度に明安処理区の機能診断調査を基に施設の更新計画を策定し、財政的支援を受けて施設更新の補助事業を行うことで維持経費削減を検討している。また、有屋処理区についても明安処理区と同様に機能強化事業を行っていく予定である。さらに、段階的に適正な料金水準に改定することを検討し、農集への加入促進を行い収益増加を図っていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。